

---

SG ~シューティング・ガード~

夢島

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

SG ～シューティング・ガード～

### 【Nコード】

N7422M

### 【作者名】

夢島

### 【あらすじ】

バスケットボール

誰もが知っているスポーツだが、知られていない。

しかし、野球やサッカーのようにバスケに打ち込む高校生は熱い。

そんな高校生の学校と部活動、恋愛を描いたストーリー。

目標は全道優勝。

## 第1話 龍崎海斗

中学校時代、地区大会全制覇、北海道大会準優勝までのぼりつめたチームが北海道にあった。

そのチームに所属していたのが今回の主人公、龍崎海斗りゅうさきみくとである。

しかし、そこそこうまいものの、試合は常にシックスマンであった。理由は、シュートに長けているものの、それ以外はまあまあであった。

普通よりはうまいのだが、何しろ強豪校である。

他の5人は正直言って格が違った。

そして引退、卒業と時が過ぎ、それぞれの道を歩み始めた。

チームメイトは道内、道外の学校へバスケのため、私立高校への特待として出て行った。

海斗は、頭もそこそこ良かったために、市内の公立高校へと進学した。

第2話 一春陽（はるみ）高校（前書き）

学校名、地名、人名は一切関係ありません。  
よろしくです！

## 第2話 一春陽（はるみ）高校

20××年、龍崎海斗<sup>りゅうせいかいと</sup>は市内の公立高校である春陽<sup>はるみ</sup>高等学校へと入学した。

200メートルほどの坂を登りきったその先にあるこの学校は、市内でもトップレベルの学力ではあるが、全道でみると平均より少し上ぐらいであった。

「クソっ！ なんだこの坂は！ 授業前に体力すべてなくす気か！」

学校まで続く長い坂は最初は緩やかなものの徐々に急になっていた。運動系の部活の生徒が練習に使っていきそうだ。

自分はやりたくないな。

そんなことを思いながら俺は坂を登って行った。

道のわきには木が一定の間隔で並んでいる。

入学の季節といえば桜かもしれないが、北海道の桜が咲くのはまだ先である。

坂を登りきるとそこには大きな玄関があり人がたかっていた。自分がどのクラスの属しているのかを確認しているのだろう。正直海斗は人が苦手だった。少し人見知りな部分がある。

（確認したら早くどけよな。 邪魔くさいっつもの）

一人心の中で文句を言った海斗を誰かが呼び掛けた。

「おい、海斗、俺一人で行くの嫌だから一緒に行こうぜ！」

玄関の方から走ってくる一人の男。

身長183センチの大男だ。

こいつは俺と同じ中学校で高校も同じ所へと進んだ。

海斗も175センチと、小さいわけではないが、こいつの隣に立つと少し小さく見えた。

「一緒につたって、俺はまだ教室がどこだか……」

「同じだよ、俺と。 2組だ」

「ああ、そうなのか」

クソ、俺の楽しみを消しやがったぞ、こいつ。

自分の目で自分がどのクラスなのか、クラスにだれがいるのかをみるのが楽しみだろ、普通。

そんなことを考えながら俺たちは玄関へと足を踏み入れた。

靴を上履きに取り換え、教室へと向かう。

「なあ海斗、お前はまたバスケット部に入るのか？」

「ああ。 今のところのつもりだ」

俺は小学校からバスケットをやっている。

「俺もバスケット、やろうかなあ」

「やめとけ」

「そ、即答ー！ 早い！早いよ海斗君！」

「そもそもお前はサッカー部だっただろ。なんでバスケットなんだ」

こいつは中学校時代サッカー部に所属していた。

「お前、でかいんだからバスケットでもやってろって言われた」

「それだけかよ。 サッカーだって身長あるのは有利だろ」

「そうだけどさあ」

こいつの名前は軽井沢翔<sup>かろいさわしょう</sup>。

とても軽そうな体格ではないのだが…

いや、でも知っているのがバスケットにいるのは少し心強いかな。そんなことを考え、オレはこいつをバスケットに入れることにした。

「入れよ、バスケット部」

「えっ!？」

「入れつつあってんだろ！ お前はでけーんだから、ゴール下で立ってるくらいで少しは役に立つだろう」

実際は大いに期待している。

サッカーをやっていたこともあり程度の体と体力はあるはずだ。フィジカルも弱くはないはずだし、運動神経もそれなりのはずだか

ら、伸びようによつては2年程度でいくらでも強く、うまくなるだ  
ろう。

「わかった！ 俺バスケット部に入る！！」

「それより、教室つてどこだ！？」

軽井沢の決意もいいが、俺たちは校内で迷子になり、初日から遅刻  
したのであった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7422m/>

---

SG ~シューティング・ガード~

2010年10月10日17時44分発行